

ありがとう、ぼくの家族

戸田 周

ぼくはぼくの家族が大好きだ。ぼくの家族は、ぼくが生活をしっかりとることができるように、はたらいてくれているお父さん、ぼくが元気にくらせるようにしてくれるお母さん、いつもぼくをわらわせてくれる、おもしろい妹のあいちゃん、おいしいごはんを作ってくれて、ぼくがお母さんとけんかをする、かならず味方になってくれるおばあちゃん、毎日には会えないけど、仕事が終わった日に家に帰ってきてくれて、サッカーを教えてくれるおじさん、そして今はもう会えないけれども、ぼくのすんでいる家をのこしてくれた、たぐみおじいちゃんの七人家族である。

ぼくはたくみおじいちゃんと会ったことがない。ぶつだんにおいてある、にっこりとわらったやさしい顔のしゃんしゃんか、おじいちゃんのことをわかんない。でもぼくはおじいちゃんのことを、たくさん知っている。それは、ぼくの家族がおじいちゃんのごい話、カッコイイ話、おもしろい話、わらってしまいう話をたくさんしてくれるからだ。今日ぼくがのどがかわいたから、ゴクゴクと牛にゆうをのんでいたら、お母さんが

「周、そのみ方はおじいちゃんにそっくり。ゴクゴクとおいしそうにのむんだよね。」とわらっていた。ちなみにおじいちゃんは、ウイスキーと言うおさけが好きで、おさけなのに水のようにゴクゴクとのんでいたそう。

このあいだ、ぼくがはじめてカブト虫をつかまえてきたとき、ぼくはカブト虫がすこしこわくてあまりさわれなかった。なのでおばあちゃんに手つだってもらっていたら、おばあちゃんが

「周のそういうところ、おじいちゃんにそっくりよ。カブト虫をお母さんに見せたくてもってくるけど、自分はこわくてさわれないから、けつきよくおばあちゃんがせわをするかかりになるのよね。」

と、ぼくの顔を見てわらっていた。

ほかにもぼくが赤ちゃんのころは、おじいちゃんに顔もたいだもにしていたらしい。今は令和ばんたくみと言われている。だからぼくは、朝、小学校に行く前にぶつだんで手を合わせるとき、

「おじいちゃん、おはよう。今日も一日よろしくね。ぼくのあいぼう。」
と言う。そうすると、おじいちゃんが近くにかんじるからだ。

ぼくは家族が好きだ。家族は、ぼくのことを好きでいてくれて、ぼくの味方でいて、ぼくに力をくれる。家族といえると楽しい。そんな場所をくれる家族にありがとうを言いたい。いつもぼくを大切にしてくれてありがとう。たくみおじいちゃん、いつもぼくのあいぼうでありがとう。今日もぼくは守られている。